

## 最近の肺結核について

結核というと、すでに過去の病気と思われがちですが、現在でも感染症の中では死亡者数が一番多い病気なのです。戦後順調に患者の発生が減少しつつきてきた結核も、最近になってその減少率が鈍化して来ました。

大阪府の発病率はかなり多く、とくに最近の傾向として、50才以上の中高年者で新たに発病する患者がふえています。

結核は、感染してもすぐに発病するわけではありません。発病するかしないかは感染者の抵抗力や免疫の有無によります。

乳幼児では、免疫がなく抵抗力が弱いので、感染するとすぐに発病して、粟粒結核や結核性髄膜炎などの全身の結核になりやすいので、乳児期にBCGを接種して、早く免疫力をつけることが必要です。

青年期では、BCG接種で得られた免疫力も10年ぐらいしか持続しないため、また感染の機会が少なくなって自然に免疫が得られないため、結核に対する免疫力のない人が多くなっています。そのため、学校や学習塾や会社での肺結核の集団発生の増加も最近の傾向です。若い女の人で非常に無理なダイエットをしたために肺結核を発病した人もあります。

高齢者や糖尿病、肝疾患、腎疾患などの慢性病のある人では免疫力が低下してきますので、若い頃に感染した結核が発病しやすくなります。

高齢者では、はじめはあまり症状がなくて、なんとなく身体がだるいとか、体重の減少や食欲低下が2～3ヶ月ぐらい続き、かなりひどくなって、ようやく咳や痰が出ることもあります。

また、世界的にエイズに結核の合併が問題になっています。

風邪の症状が長く続いたり、なんとなくだるい感じがして、やせてくるときには、また高齢者では症状がなくても定期的に、がんと共に結核の検査を受けましょう。

追伸 平成19年度においては、毎年2万7千人もの方々が新しく発病し、2万3百人もの死亡者が出ております。

平成8年5月  
西山 雅雄